

第3期宮前区区民会議 第2回会議

～みんなで力を合わせてくらしやすい地域社会をつくろう～

日時：平成22年8月3日(火)18:00～20:00

場所：宮前区役所 4階大会議室

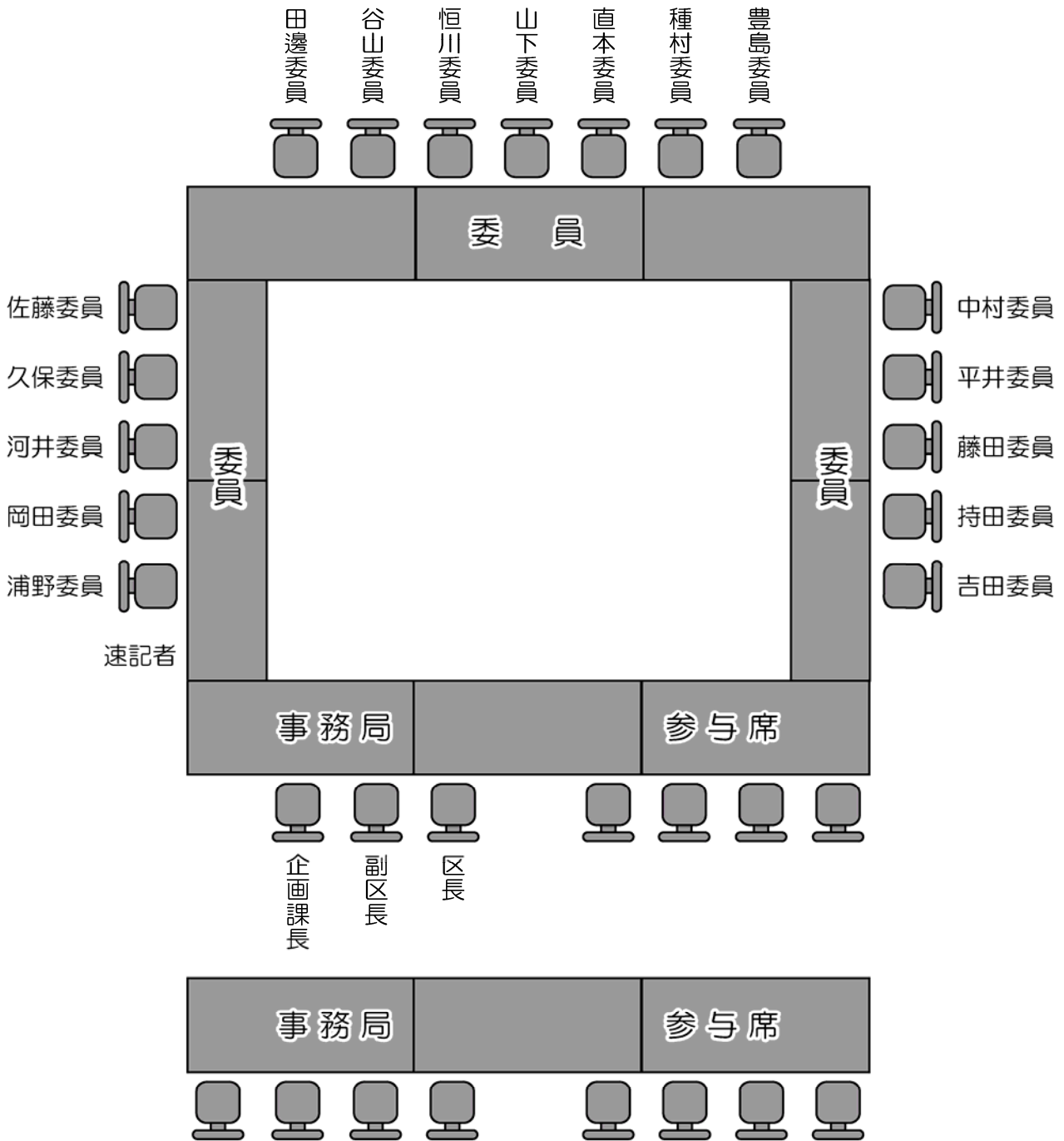
次 第 (案)

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 企画部会報告
 - (2) 審議テーマの選定
 - (3) 所属部会の決定
 - (4) プレ部会と意見交換
 - (5) 部会報告
- 3 報告
 - (1) 第2期区民会議提案事業の進捗状況
 - (2) 平成21年度宮前区協働推進事業の事業評価
- 4 その他

【配布資料】

- | | |
|-----|-------------------------|
| 別紙1 | 座席表 |
| 別紙2 | 第3期宮前区区民会議 名簿 |
| 別紙3 | フリーメモ |
| 資料1 | 初期のスケジュール |
| 資料2 | 審議テーマの絞込みイメージ |
| 資料3 | 既に把握されている課題一覧 |
| 資料4 | 第3期区民会議委員の意見まとめ |
| 参考1 | 宮前区冒険あそび場支援検討委員会 検討資料 |
| 参考2 | みやまえカルタ制作実行委員会 検討資料 |
| 参考3 | 平成21年度宮前区協働推進事業・事業評価一覧表 |

第3期宮前区区民会議 第2回会議 座席表



第3期宮前区区民会議 名簿

No.	部会		氏名	選出区分	分野	団体名等
	企画					
1			ひらい しょうこ 平井 賞子	団体推薦	①防災・地域交通	宮前区安全・安心まちづくり推進協議会
2			たなべ やすあき 田邊 保昭	団体推薦	②福祉・健康	宮前区社会福祉協議会
3			よしだ こうたろう 吉田 亨太郎	団体推薦		宮前区老人クラブ連合会
4			くぼ ひろこ 久保 浩子	団体推薦	③子育て・教育	宮前区子ども・子育てネットワーク会議
5			てしま このみ 豊島 このみ	団体推薦		宮前区民生委員・児童委員協議会
6			もちだ まさみ 持田 正美	団体推薦		宮前区地域教育会議
7			かわい あきこ 河井 明子	団体推薦	④自然・生活環境	グリーンフォーラム 21 みやまえ世話人会
8			たにやま やすはる 谷山 安治	団体推薦	⑤産業・まちの活力	宮前区商店街連合会
9			なかむら とみわ 中村 富美和	団体推薦	⑥文化・観光	宮前区文化協会
10			たねむら つねお 種村 恒夫	団体推薦	⑦地域組織・まちづくり	宮前区全町内・自治会連合会（向丘地区）
11			てづか ゆりこ 手塚 百合子	団体推薦		宮前区全町内・自治会連合会（宮前地区）
12			うらの じゅり 浦野 珠里	団体推薦	⑧地域特性	フロンタウンさぎぬま
13			おかだ りょうすけ 岡田 亮介	団体推薦		宮前区地域ポータルサイト 「みやまえぼーたろう」
14			ふじた しんご 藤田 信吾	団体推薦		宮前区まちづくり協議会
15			たかはし ひろゆき 高橋 弘幸	公 募		
16	○		★やました ひろし ★山下 浩	公 募		
17			こいずみ ひろし 小泉 博司	区長推薦		川崎市農業青年協議会（小泉農園）
18			さとう としえ 佐藤 利枝	区長推薦		第2期区民会議 公園・地域づくり部会長
19	○		つねかわ やすお ☆恒川 康夫	区長推薦		第2期区民会議 宮前区の宝さがし部会
20	○		なおもと たかこ ☆直本 享子	区長推薦		神奈川県保護司会連合会事務局長

★……委員長 ☆……副委員長

◎……部会長 ○……部会メンバー

【参与】

市議会議員

浅野 文直	織田 勝久
飯田 満	佐々木 由美子
石川 建二	平子 瀧夫
石田 康博	矢沢 博孝
太田 公子	山田 晴彦

県議会議員

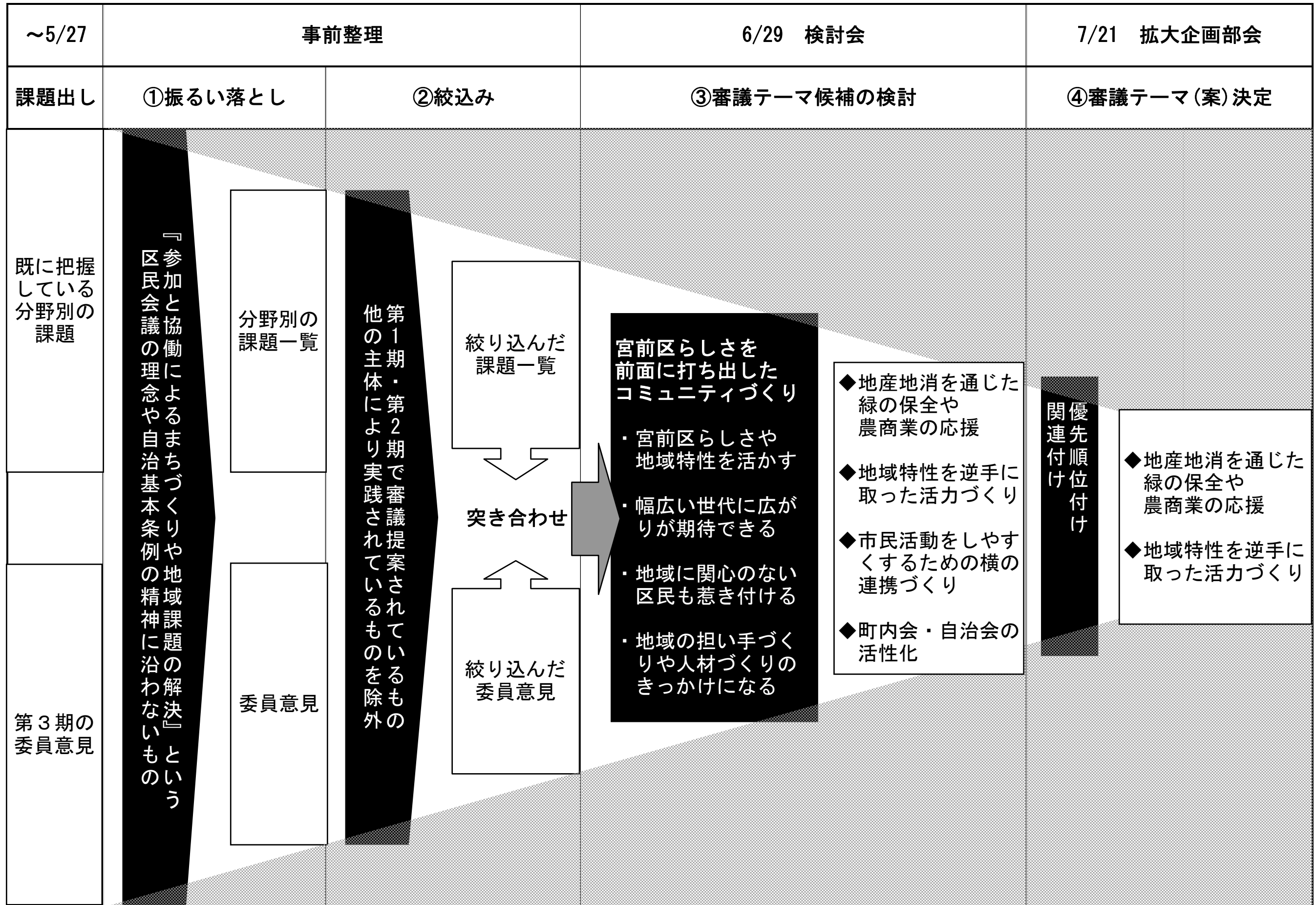
持田 文男

フリーメモ

第3期宮前区区民会議 初期のスケジュール

5/11 打ち合わせ	5/27 全体会①	6/29 テーマ検討会	7/21 企画部会	8/3 全体会②
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">事前説明会・意見交換パート1</p> <ul style="list-style-type: none"> ●区民会議の概要 ●任期2年間の流れ確認 ●審議テーマ決定までの進め方 ●各委員の自己紹介と意見交換 ●アイデア出し ●正副委員長候補の選任 	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">グループワーク・意見交換パート2</p> <ul style="list-style-type: none"> ●委嘱 ●正副委員長選出 ●審議テーマを決めるためのグループワーク（2グループ） ●6月～8月の日程確認 	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">意見や課題の整理と方向性確認・具体的テーマ候補出し</p> <ul style="list-style-type: none"> ●審議テーマ選びの方向性確認 <ul style="list-style-type: none"> ・区民会議で取り組むべきこと ・区民会議だからこそできること ・第3期メンバーだからこそ取り組めること ●既に把握された課題との突合 ●審議課題の絞込 <ol style="list-style-type: none"> ①「参加と協働」という区民会議の理念にそぐわないもの ②他の主体で取り組むべきもの・1期2期提案を受けて取組が進められているもの 	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">関連付け・優先順位付け・審議テーマ案づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各テーマ候補の優先順位付け・関連付け ●審議テーマ企画部会案づくり 	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">審議テーマ決定・専門部会発足・プレ部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ●審議テーマ決定 ●所属部会決定 ●プレ部会開催 <ul style="list-style-type: none"> ・審議テーマについて自由に意見交換 ・部会日程決め ●11月の全体会日程確認

審議テーマの絞り込みイメージ



既に把握されている課題一覧

1 防災・地域交通(33)

101 安全・安心

- 安全・安心に関する情報共有
- 子どもの通学時における安全対策
- 手動式信号の反応時間の短縮
- 通学路などの歩道ライン整備
- 防犯灯の拡充
- バイクや自転車の危険走行
- 救急車の私的利用
- 地域の落書き
- 地域の防犯対策

102 環境衛生

- ペットの飼育マナーの改善

103 地域交通

- バス路線・ダイヤの整備
- バスの定時性確保や交通弱者の生活状況の改善
- 高齢者等のための区役所や公共施設、商業施設等へのアクセス改善
- 向ヶ丘遊園・菅生線の拡幅に伴う利便性向上
- 放置自転車

104 防災

- 地域の防災力向上
- 二次災害防止等に向けた市民と行政の役割分担の明確化と連携
- 集中降雨による排水不良などの都市型災害の回避
- 幹線道路の緊急活動道路としての整備
- 平瀬川上流水源域の開発による洪水対策

6 文化・観光(7)

604 文化・芸術

- 区民参加型の文化事業が少ない

105 景観

- 幹線道路沿線の景観整備
- 河川など水空間の景観整備
- 市境の景観整備
- 河川中心に形成された土地利用と鉄道中心の土地形成との調和
- 公共施設等の案内板の整備

106 住環境

- 土地利用のあり方
- 開発等に伴うルールのあるあり方

107 道路

- 菅生ヶ丘周辺の道路整備
- ゆりかご通りの交通安全対策
- 区役所前交差点への右折レーンの整備
- 信号機への地名の表示
- 街路樹の成長に伴う歩道の整備

108 市境・区境

- 市境・区境における課題の解決方法

601 国際交流

- 外国文化との交流

602 地域活性化

- 地域間交流
- 宮前区民祭の充実

603 魅力

- 宮前区観光協会との連携
- 歴史・文化を感じさせるまちづくり
- 宮前区に多くの人々が関心を持てるようにすることが必要

2 福祉・健康(9)

201 福祉全般

- 福祉サービス全般の充実
- 福祉施設の充実
- 身近な相談機会の創出

202 高齢者福祉

- 介護予防を支援する受け皿の充実
- 地域ぐるみでの介護予防の活動が知られていない
- 高齢者の見守りによる孤独死の予防

203 障害者福祉

- 障害者とその家族への支援

204 バリアフリー

- 障害者・高齢者等を含めたさまざまなバリアフリー化

205 医療

- がん患者及びその家族をサポートする組織の整備

5 産業・まちの活力(9)

501 広域交通

- 鉄道網の整備
- 都市計画道路の未整備地域での渋滞解消

502 土地利用

- 土地利用のあり方
- 市の未利用地の活用
- ITの進展等による住宅、職場、商業地域などが混在となった土地利用

503 まちの活力

- 宮前平駅周辺の活性化に向けた整備
- 鷺沼駅周辺の区のシンボルゾーン化
- 住民の横のつながりや地域への愛着心の醸成
- 都市農業の活性化

3 子育て・教育(11)

301 学校教育

- 高い教育水準にある小学校に見合った中学校、高校の不足

302 子育て活動支援

- 子育て支援のあり方(組織・担い手・人材育成)

303 子育て活動拠点

- 既存子育て関連施設・青少年施設等の有効活用
- 子どもが健やかに成長する場の不足
- 親子が安心して居られる場所の不足

304 保育

- 待機児童の解消(働く母親への支援)

305 地域で子育て

- 地域の教育力の低下
- 青少年の健全な育成
- 子どもが自分の住むまちを知り、誇りを持てる機会の創出
- 子ども達が地域でふれあう場づくり
- 児童虐待

7 地域組織・まちづくり(13)

701 行政サービス

- 効率的・効果的な行政サービスの提供
- 財政事情の改善
- わかりやすい区役所業務の案内
- 利用しやすい区役所庁舎の整備
- 区役所・市民館のイメージアップ

「参加と協働」という区民会議の理念にそぐわないもの

第1期2期で審議提案し取組が進められているもの
他の主体により実践されているもの

4 自然・生活環境(7)

401 環境全般

- 環境にやさしいまちづくり

402 地域環境

- 広域幹線道路沿道の騒音・排気ガス等の大気汚染の改善

403 地域環境

- タバコやごみのポイ捨て等の防止

404 緑

- 緑の保全の創出
- 水・緑等を活かした景観づくり

405 公園

- 利用者の視点に立った公園の有効活用
- 公園が汚くて使いづらい

702 コミュニティ

- 町内会・自治会の活性化
- 地域コミュニティの再構築
- 地域特性を活かしたコミュニティの仕掛けづくり

703 市民参加

- 市民参加のシステム構築
- 区民会議のあり方

704 施設の有効活用

- 地域ニーズに応じた施設の有効活用

705 市民活動支援

- 効率的な地域情報の発信
- 地域人材の育成と活用

第3期宮前区区民会議 委員意見まとめ

テーマ設定の考え方

区民会議の芯・軸

- ・ 10年くらいのスパンで考えたらどうか
- ・ 第1期～第3期のテーマを連携させてはどうか
- ・ カルタなど2期のテーマをなんらかの形で継続してはどうか
- ・ 「地域コミュニティ」は永遠の課題

多世代のかかわり

- ・ いろいろな層が関われるようなテーマにしたい
- ・ 若い世代（中高生）やリタイア世代などを巻き込みたい
- ・ 情報発信を上手に行い、より多くの区民を巻き込みながらやっていきたい
- ・ いろいろな団体が関われる協働の事業を提案したい
- ・ 区民が楽しみながら参加できるような提案にしたい

区民会議のあり方

- ・ 個別の陳情や要望を区民会議で取り扱うべきではない
- ・ 担い手を常に念頭に置きながらテーマを決めるべき
- ・ 交通アクセスや拠点づくりを区民会議で扱うべきかどうか

個別分野の課題

- ・ 福祉等の分野別の課題をストレートに扱うのは難しい

第3期のテーマ

コミュニティづくり

- ・ 宮前区は住みやすいと思う
- ・ 豊かなコミュニティあふれるまちにしたい
- ・ コミュニティづくりにつながる日常の活動をサポートできているか（活動場所があるか、道具を置く場所があるか）
- ・ 単なるイベントではなく、コミュニティづくりにつながる、役立つ内容に
- ・ 声掛けをするなど、顔の見えるまちづくりをつくっていききたい
- ・ イベントのノウハウやマニュアルなどを集約したい

情報収集・発信

- ・ 地域の問題を知り、話し合う場や懇談会ができるとよい
- ・ サイレントマジョリティ（物言わぬ大多数）の声を拾う
- ・ 子どもたちの意見を聞く場があってもよい
- ・ 町会の回覧物が多すぎて機能不全に陥っている
- ・ 情報を伝達するには工夫が必要（歳時記のような情報の簡略化も）
- ・ 町内会・自治会など地域の成功事例を発信すると広がるのではないか
- ・ 区内の良いところなど宮前区の魅力を発信したい
- ・ フロントタウンやコミュニティビジネスなどが持っている、情報発信力を上手く活用したい
- ・ 商店がコミュニティづくりに参加し、地域に貢献できるとよい
- ・ 区民を巻き込むには情報発信が重要。ポータルサイトを軸に活性化したい

町内会など地域団体の活用・交流・ネットワーク

- ・ さまざまな地域活動のベースはやはり町内会
- ・ 町内会とのネットワークが必要
- ・ 学校、PTAと町内会など地域の連携
- ・ 地域団体との交流が必要

宮前区らしさ・地域特性を活かす

- ・ 「宮前区をもっと素敵にまちにする」という観点で考えたい
- ・ 宮前地区と向丘地区の特性の違いを考慮して検討したい
- ・ 区の実態把握や現地調査をして、いろいろな企画を提案していききたい
- ・ まちの特徴をポジティブに捉え、山坂を健康づくりに活かすなど発想を転換してはどうか
- ・ 宮前区は転入者が多い。外から入ってきた人が地域に馴染めるようにしたい
- ・ 住宅地と農地が混在・近接している点は特徴的。
- ・ 働いていると「宮前区」を意識をする機会がない
- ・ フロントタウンを地域の課題に取り組む場所やツールとして活用してほしい

活力づくり

- ・ 元気な市民づくり・健康づくり（高齢化は避けられないが、寝たきりは避けられる）
- ・ 各世代で元気な人と引きこもる人が二極化している
- ・ 引きこもる人たちをどうにかして地域に引っ張り出したい
→ 公園体操をきっかけに健康づくりを広げられないか

シニア・高齢者

- ・ 高齢者の特技などシニアパワーを地域に使えないか
- ・ 55歳～60歳代が活躍してほしい

人材づくり・担い手づくり・きっかけづくり

- ・ 継続可能な地域活動をいかに支援するか
- ・ 担い手が固定化している。若い人が参加できるような仕掛けづくりを
- ・ 担い手づくりは時間がかかるし、多くの人はいきなり担い手になれない。まずは参加してもらう工夫をすべき
- ・ 与えるという意識ではなく、自ら楽しめることが担い手となる鍵
- ・ 中高生など子どもが地域での役割を担っていけるような取組を

緑を活かす

- ・ 向丘地区に豊富に残る緑は区の財産である
- ・ 魅力的な農地を残すために地産地消を推進したい
- ・ 緑化などについて宮前区独自の協定ができれば
- ・ 公園がない地区がある

子ども・子育て

- ・ 昔のようにのんびりと子育てができる環境づくり
- ・ 幼稚園や保育園、プレーパークなどが足りない
- ・ 親の都合ではなく、子ども目線で子育てを考える
- ・ 学校に行けない子どもが活動できる場があれば

地域主体による「冒険あそび場」活動の支援について

■第2期区民会議 公園・地域づくり部会からの提案

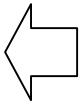
「冒険遊び場」をひろめよう！

■地域が主体となって実施

- ・地域住民が中心になって活動する
- ・地域の公園等で開催する

■行政の支援は側面から

- ・活動立ち上げの支援
- ・冒険あそび場開催の支援 など



※支援するためのルールや支援内容を「冒険あそび場支援検討委員会」で議論

■冒険あそび場支援検討委員会 委員名簿

No		氏名	選出区分	団体名等
1		いたづま まさかつ 板津 昌且	団体推薦	鷲ヶ峰公園管理運営協議会
2		くぼ ひろこ 久保 浩子	団体推薦	宮前区子ども・子育てネットワーク会議
3		ほんま たかお 本間 孝雄	団体推薦	とんもり谷戸の自然を守る会
4		もくだい ゆみこ 目代 由美子	団体推薦	宮前区民生委員・児童委員協議会
5		やしま よしお 谷島 義雄	団体推薦	宮前区子ども会連合会
6	副委員長	やまおか ようこ 山岡 洋子	団体推薦	宮前区子どもの遊び場を考える会ポレポレ
7		もちだ ゆうじ 持田 裕次	団体推薦	宮前区青少年指導員連絡協議会
8		いしがみ かずよ 石神 一代	公募	
9		かわにし かずこ 川西 和子	公募	
10		さとう としえ 佐藤 利枝	区長推薦	第2期宮前区区民会議 公園・地域づくり部会長
11	委員長	ながの まさる 永野 勝	区長推薦	第2期宮前区区民会議 委員長

■冒険あそび場支援検討委員会 開催概要

- 第1回…平成22年5月12日
 - 第2回…平成22年6月2日
 - 第3回…平成22年6月30日
 - 第4回…平成22年7月14日
- ↓

これまでの検討内容

- ・宮前区が推進する「冒険あそび場」のあり方
- ・必要な行政支援のあり方
- ・モデル事業の実施方法 など

今後検討していく事項

- 第5回…平成22年8月5日
 - 第6回…平成22年8月25日
 - ……
- ・区が支援するためのルール
 - ・具体的な支援内容
 - ・モデル事業の具体的な内容 など

※10回程度の委員会での検討を経て報告書をまとめ、年度末に「冒険あそび場支援要綱」を策定し、次年度から同要綱に基づく支援を開始する予定です。

みやまえカルタ制作スキーム



●第2期区民会議からの提案

幅広い世代の参加によるカルタづくりを通じて、地域への愛着を涵養し、地域コミュニティの活性化をめざす

●事業化

区制30周年にあたる平成24年度の完成をめざし、協働推進事業として事業化

●みやまえカルタ制作実行委員会（H22年4月19日設立）

発起人：第2期宮前区区民会議 宮前区の宝探し部会長 地域リーダー：有志
団体推薦：宮前区全町内会・自治会連合会 宮前区地域教育会議
宮前区観光協会 グリーンフォーラム21 全10名

地域のカルタ（中学校区ごとに制作）

●地域リーダーの役割

地域のカルタ制作の協力者を募り、中学校区ごとに部会を設立

- ・公募
- ・地域で活動している方に直接依頼
- ・協力団体から推薦 など

・地域の団体の協力を得て、団体のイベントなどを通じて絵札・読み札を募集

・絵札・読み札を地域で募集（こども文化センター、いこいの家など）

地域コミュニティの活性化が図れるよう、幅広い世代が参加できるイベントを開催

- ・地域カルタ大会
- ・地域のカルタを巡るまち歩き など

2地区（菅生・宮前平）先行実施 ～H23年夏
其他地区 ～H23年秋

選考
(H24年春)

地域リーダーから協力を依頼する団体等

- ・小学校
- ・町内会・自治会
- ・老人・シニア団体
- ・子ども会
- ・市民活動団体（まち歩き・イベントなど）
- ・こども文化センター
- ・いこいの家 など

地域から集まった絵札・読み札、区全域からフィードバックされた絵札・読み札を選考し、地域のカルタを制作

- ・人気投票の実施
 - ・学術的な意見
- ↓
「選考会」の開催



※「野川ふるさとカルタ」から

フィードバック

区全域での募集（～H22年秋）

区全域を対象として募集する方法

- ・市政だより
- ・区ホームページ
- ・チラシ
- ・団体のイベント
- ・区民祭
- ・市民館の各種教室 など

- ・集まった絵札・読み札を地域ごとに整理
- ・学術的な見解を整理

- ・募集要領（期間、テーマ、応募様式等）を整理し、公募
- ・まちづくり協議会、市民館等への依頼

選考委員会

- （委員構成案）
- ・宮前区全町内会・自治会連合会
 - ・宮前区観光協会
 - ・宮前区文化協会
 - ・宮前区地域教育会議
 - ・みやまえカルタ制作実行委員会
 - ・区長 など

みやまえカルタ (H24年夏完成)

フォーラムの開催

- ・みやまえカルタのお披露目
- ・カルタ制作の目的過程等の紹介
- ・みやまえカルタに採用された地域の宝（地名、歴史・文化・史跡等）の解説
- ・優秀作品等の表彰

区制30周年記念 カルタ大会の開催

- ・区民祭などで「区制30周年記念みやまえカルタ大会」を開催
- ・お気に入りのスポット選び投票

地域でカルタの活用

- 幅広い世代が地域を知り親しめるように、小学校、子ども会、老人会等の各種団体、地域でみやまえカルタを活用（カルタ大会等）
- ・地域でのカルタ大会
 - ・カルタに詠まれているスポットを巡るまち歩きの開催
 - ・人気投票やお気に入りのスポット選び など

平成21年度 宮前区協働推進事業評価一覧表

NO	事業名	目的及び内容	開始年度	予算額(円)	決算額(円)	成果	次年度以降の事業計画	具体的な展開方針(※終了する場合は終了理由)	優先度	担当課
1 安全で快適に暮らすまちづくり										
1	安全安心まちづくり推進事業	区民、地域団体、事業者、行政機関等の連携・協働により、防犯・防火・交通安全などの推進を図り、暮らしやすい地域生活の環境づくりに取り組むため各種事業・施策の展開を図る。	平成18年度	438,000	426,204	・平成21年度は防犯・防災・交通安全の各分野において、各団体、地域団体事業者団体のイベントや総会、パトロール時には「安全安心まちづくり推進協議会」として支援を行い、啓発活動を行った。 ・「安全安心まちづくり推進協議会・全体会」を開催し宮前区の安全安心を推進した。	見直し・改善の上継続	平成18年度の通り魔事件を契機として認識された、地域の防犯活動の重要性に対する意識・興味を衰退させることのないように、今後も、引き続き犯罪防止活動の推進に努めていく。今後は「区境・市境を越えた安全安心まちづくり推進事業」を統合し防犯ベスト等の防犯パトロール用の資器材の貸与等を行うことで地域防犯パトロールに対する支援を行い、宮前区全体をととした安全安心のまちづくりを進めていく。	B	地域振興課
2	区境・市境を越えた安全・安心まちづくり推進事業	近年、防犯活動への関心は高くなっており、区役所においても、警察や区民・地域との協働のもと地域防犯施策の推進体制を整備することは大きな課題となっている。犯罪等を未然に防ぐために安全で安心して暮らしていけるまちを目指して「宮前区安全安心まちづくり推進協議会」を中心として、警察や関連団体等と協議を行い、区境や市境を超えた連携を行うことにより、防犯の隙間を作らないような取り組みを行っている。	平成20年度	322,000	319,932	21年度は高津区、都筑区、警察や関連団体と協議を行い、3回の合同パトロールを行った。特に高津区との合同防犯パトロールは両区の100人を超す人数で行われ、地域住民に対する安全安心を啓発することができた。また区境地区における連携的なパトロール等防犯活動の活性化のために防犯ベスト、腕章、安全安心見守りカード等の防犯パトロール資器材の貸与を行った。	終了する(統合)	犯罪等を未然に防ぎ、安全で安心して暮らしていけるまちを目指すには、地道な活動を継続する必要がある。しかしながら、「安全安心まちづくり推進事業」と重なる部分があるため、防犯パトロール用資器材の貸与等の事業を含め、今後は「安全安心まちづくり推進事業」に統合していく。	B	地域振興課
3	子ども安全・安心見守り事業(区民会議課題)	宮前区子ども安全・安心協議会等を開催し、区内の学校、保護者をはじめ、地域住民、事業者、関係団体、警察、行政機関が連携し、子どもを犯罪から守り、登下校時等における子どもの安全を確保する。 実施内容 1 子ども安全・安心協議会等の開催 2 「宮前区子ども安全・安心通信」年2回発行 3 各小学校区子ども安全・安心協議会が実施する「地域安全マップづくり」への支援	平成19年度	1,122,000	736,993	・子ども安全・安心協議会の開催により、地域の子どもの安全の確保のための活動の情報交換、共有ができ、関係機関、団体、地域住民等の連携の強化が行われた。 ・「宮前区子ども安全・安心通信」の発行により子ども安全・安心協議会の活動の広報ができた。 ・小学校で「地域安全マップ」づくりを実施し、子どもたちの危機管理能力の向上が図れた。	現状どおり	・子ども安全・安心協議会の開催については継続 ・「宮前区子ども安全・安心通信」については、読みやすいようにカラー化を検討 ・「地域安全マップ」づくりについては、こどもたちの危機管理能力の向上のため、継続。	B	こども支援室
4	防災意識普及啓発事業(区民会議課題)	「いつ起こるかもしれない」大地震等の災害に備えるため、防災フェアの実施や、防災ニュースの配布などを通して、区民一人一人に防災に関する知識を根付かせ、防災意識の向上を図る。また、防災推進員養成研修を開催し、各自主防災組織でリーダーの役割を担う人材を養成する。	平成20年度	1,965,000	1,912,000	・防災フェアにおいては、各種防災関係機関による防災展示・実演、防災講習会などを通して、区民の防災意識の普及啓発を行うことができた。 ・4半期に1回、年4回の「防災ニュース」を発行し、町内会自治会等に回覧することで、区民一人一人に防災意識を喚起することができた。 ・防災推進員養成研修では、計34名が防災に関する知識や啓発手法について研修を受講し、宮前区防災推進員として登録された。	見直し・改善の上継続	いつ大地震が発生してもおかしくない状況の中で、区民一人一人の防災意識を向上させ、災害に備えることは極めて重要なことである。今後も災害時の被害を最小限に抑えていくため、防災ニュース、防災フェア、防災推進員養成研修を継続的に実施し、宮前区の地域防災力向上に繋げていく必要がある。	B	地域振興課
5	ねずみ、昆虫等駆除対策支援事業	住民からの各種害虫等相談に対して、本事業で作成した小冊子、リーフレット等を活用して、当該害虫等の生態、駆除方法、発生予防方法等について正しい知識を提供し、薬剤による化学対策に偏らない総合的な防除対策を支援する。 ・ネズミゼロを目指して(リーフレット)：10,000部 ・くらしに身近な虫たち(小冊子)：10,000部 ・アタマジラミ啓発リーフレット：10,000部 ・ハチ啓発ポスター：30部 ハチ啓発リーフレット：10,000部	平成21年度	1,255,000	954,985	・平成21年11月～平成22年3月のネズミ駆除シーズンにおいて、作成したリーフレットを用いて、ネズミの生息確認状況を相談者に確認した上で、侵入場所の確認・点検補修、殺鼠剤の使用法、食品の管理及び屋内の整理整頓・巣の材料除去等について説明することができた。 ・本事業で作成したリーフレット等は、殺鼠剤等の化学的・物理的対策のみに依存することなく、環境対策を推進する上で効果的な説明資料とすることができた。	終了する	—	—	衛生課
2 幸せな暮らしを共に支えるまちづくり										
6	高齢者健康づくり支援事業(区民会議課題)	地域で高齢者の健康づくり、介護予防を推進していくために、地域住民が主体的に区内29箇所で公園体操等の活動を展開している。この活動により多くの人々に参加を促し区内全域に活動が広がるように、公園体操マップを区民と共に作成し情報を提供する。また、平成20年度に宮前区運動普及推進員と協働して作成した宮前区オリジナルストレッチ体操「風の中で」がピアノ曲と体操指示の音が聞き取れず使用が難しい状況になっていたため、緊急対応事業として、録音業者に委託しCD200枚と新たなカセットテープ200本を作成する。公園体操グループや高齢者自主活動グループ等で宮前区の体操として多くの区民に普及を図る。更に公園体操の立ち上げや継続支援を行う。	平成20年度	1,306,000	864,690	21年3月に公園体操交流会を実施、公園体操マップ作成検討会を立ち上げた。検討会は公園体操12グループのリーダー(町会関係者、民生委員、ボランティア)と運動普及推進員、2包括支援センター職員の20名で構成した。5回検討会を開催し、目的の共有、内容の検討、公園体操の情報交換を行った。21年4月には29グループであったが、22年3月には39グループ(2グループは室内)に増え、宮前区内全体に広がった。公園体操マップには21年9月現在、公園で行っている35グループの情報を載せた。6000部作成し区民に配布しているが、要望が高く残り500部となった。特に区役所設置分については、予想を上回るペースで区民が持ち帰っている。また、宮前区らしい緑のジャケット付きで、公園体操等で高齢者から子どもまで行うことができる体操のCD、カセットテープが完成した。公園体操等グループ(32箇所)、運動普及推進員等(50名)に、地域包括支援センター(5箇所)配布したところ、それぞれの公園体操等で活用されており、普及されてきている。運動普及推進員が中心になって体操の動きを考えたことで、区内に普及していく意欲が高い。	見直し・改善の上継続	区民に健康づくり、介護予防、閉じこもり予防のため、公園体操への参加を促し、更に区内に公園体操を広げるために公園体操マップを完成後増えた2グループを入れ22年度増版する。また宮前区オリジナル体操「風の中で」のリーフレットを作成予定である。平成22年10月8日にこの体操のお披露目を運動普及推進員と共催で開く予定であり、今後、更に公園体操やオリジナルストレッチ体操「風の中で」を区民と共に普及していく。	A	地域保健福祉課

平成21年度 宮前区協働推進事業評価一覧表

NO	事業名	目的及び内容	開始年度	予算額(円)	決算額(円)	成果	次年度以降の事業計画	具体的な展開方針 (※終了する場合は終了理由)	優先度	担当課
3 人を育て心を育むまちづくり										
7	子育て支援事業 (区民会議課題)	① 広く区民に対し、子育て情報を提供する。 子育てガイド「とことこ」改訂版の発行(H22年4月) 10,000部 子育て情報「かわら版」の発行、年2回(H21年7月・11月) 各18,000部 ② 子育て支援関係者の連携を強化し、安心して子育てできる地域づくりを進める。 子育て支援関係者連絡会の参加により、情報交換、区内の支援体制の協議を行う。	平成16年度	2,559,000	2,264,410	① 転入も多く、地域との関係が希薄で孤立しがちな乳幼児を含む世帯にとって、子育てガイド「とことこ」改訂版とその内容の補完とタイムリーな情報提供を目的とする「子育て情報かわら版」を発行できたことは、子育て世帯の孤立や育児不安の軽減につながった。 ② 子育て支援関係者連絡会(子支連)及び子支連主催事業への参加により、関係者、団体との連携が強化され相互理解が深まった。	見直し・改善の上継続	今後も子育て支援の1つの取り組みとして、必要な情報をタイムリーに発信していくことは必要である。子育て世帯にとって魅力的でタイムリーな情報を一体的に提供できるように、「かわら版」についてもH22年度より子育て支援関係者連絡会を中心とした実行委員会形式で作成していく予定である。そのため、ホームページの更新と2年後の「とことこ」改訂も含め、子育て支援関係者連絡会の事務局でもあり、子どもに関する情報収集・発信を一体的に行っていることも支援室が今後は実施していく予定である。	B	保健福祉サービス課
8	親と子の子育て応援セミナー事業 (区民会議課題)	宮前区内の親子を対象に、「親の育児力」を育成するために、子育てに関する知識と技術を持つ公立保育園の人材を活用し、子育てに関する相談・親と子の学習の機会及び交流の場を提供する。転入者に対しても友だち作りのきっかけとする。 70組の親子を対象に連続講座(7回)を実施する。	平成19年度	498,000	484,383	・転入者の参加を考慮し募集時期を前記・後期とし、希望者が多いことから7回の連続講座70組で実施し、家庭で子育てする母親への支援となった。 ・参加者から、宮前区を知ることができた、友だちができて子育てが楽しくなった等、好評を得た ・地域の子育てグループとの交流等により、積極的に地域の子育て活動に参加する姿がみられた。 ・「父親の育児参加」には多くの父親の参加(75%)があった。	見直し・改善の上継続	前期・後期(70組)に加えミニ講座(20組)の親子を公募し、子育てに関する相談、親と子の学習の機会および交流の「場」を提供し、友だちつくりと、育児力の向上、子育てリーダーの育成を図る。	B	子ども支援室
9	子ども支援ネットワーク事業 (区民会議課題)	宮前区子ども支援関係者連絡会を開催し、子どもにかかわる関係機関、団体等とのネットワークの強化を図る。また、虐待など要保護児童等の早期発見、支援に向けた連携を強化するため、スーパーバイザーによる事例検討会や講演会を行う。	平成19年度	146,000	153,331	・子ども・子育てネットワーク会議は、委員構成を拡大し9月、2月の年2回開催。議題等を工夫し団体紹介、テーマをきめて意見交換をした結果、連携の重要性を確認することができた。 ・子育て関係者連絡会を年6回開催し、情報交換、事業の展開等について協議した。事業として子育てグループ交流会、うえるかむクラス(2日間)、子育てサロン・赤ちゃん広場等交流会、子育てかわら版発行(2回)を行い、子育て支援活動の活性化、区民への子育て情報提供などができた。 ・要保護児童地域対策協議会実務者会議を開催。今年度幼稚園も加えた委員構成とし、3回開催。虐待に関する地区別情報交換、講演会、事例検討会を行い、支援体制の強化にむけた連携を図ることができた。	見直し・改善の上継続	子どもに関する施策を進めていく上で関係機関・団体等との連携を強化することは重要であるため、議題等の工夫を行い継続する。また、庁内部署の連携を図るために情報交換を含めた会議を行う。	B	子ども支援室
10	子ども包括支援事業	地域的に行政サービスや子どもに係わる支援を受けにくかった野川・有馬地区における、子ども・子育て支援ニーズに対応し、地域に密着した子ども・子育てサービス支援の実施。 子ども・子育て相談、情報提供、子育てサロンの実施、子育て自主サークル支援、不登校児等の居場所の確保。	平成21年度	3,371,000	3,370,113	・「子どもサポート南野川」を5月より開所し、育児の孤立化を防ぎ、地域の子育て支援の場として、月1回、子育てサロン(利用者数、延べ233人/H21年度)を実施、また、9月より、月1回、いっしょに遊ぼう(利用者数、延べ133人/H21年度利用)、週3回、フリースペース(利用者数、延べ58人/H21年度)を実施した。サロンやいっしょに遊ぼうに参加したことがきっかけとなり、フリースペースも利用するようになったケースも多く、友達が増えることで、地域の中でたのしく子育てすることができるようになった。 ・不登校児等への生活支援、学習支援も学校を中心に周知を図り、5月開所より利用人数も序々に増加し、延べ280人の利用があった。 ・NPO法人が行った不登校児についての相談は26件、子ども支援室の教育相談員、家庭相談員の出張相談は1件の利用があった。 ・入口部分にコーナーを作り来所者に情報提供を行った。	見直し・改善の上継続	・H21年度の成果を踏まえ、更に子育て支援の場つくりを進める。いつでも気軽に利用できる環境を整備するため、開所日を3日から4日に増やして実施する。また、利用のきっかけ作りのため、近隣のボランティアグループの方や保育園の協力を得ながらイベントなども行い、利用促進を図り、地域での交流、仲間つくり、情報交換などの場として充実していく。 ・次年度以降も、関係機関、地域と連携し、広報活動も活発に行い、「子どもサポート南野川」を、この地区の子ども・子育て支援の拠点として、定着させていく。	A	子ども支援室
11	親子ふれあい事業	子どもが心身ともに健やかに成長するためには、親子でふれあうことが大切であり、夏の「七夕飾り」秋の「親子で体を使って過ごす体験」、冬の「食」を通して地域の中で、親子で楽しむ機会を増やす。また、春には、思春期の子どもを持つ親向けに、子どもとのより良い関係づくりのために講演会を開催する。	平成21年度	111,000	103,310	講演会、七夕かざり、親子スポーツ大会、親子料理教室は、季節ごとに思春期、乳幼児、小学生、年長児と対象年齢を絞り、変化のある内容を企画した。それぞれの参加者からは親子で一緒に楽しめた等、好評を得た。	終了する	親子がふれあうことを目的に事業を実施したが、次年度は「子どもサポート南野川」の場所を利用して、地域と親子がふれあえる事業として実施していくこととする。	B	子ども支援室
12	シニアライフ支援事業 (区民会議課題)	団塊世代の大量退職期を迎え、多彩な能力を持つ一方で地域との関わりが薄いといわれる団塊世代の活力を地域で活かし、また、団塊を含めたシニア世代の地域デビューや生きがい作りをサポートするために、宮前区シニアアドバイザーとの協働により、よろず相談窓口の開設や、地域デビュー講座、シニア世代向けの講演会を開催する。 ・シニア相談窓口(毎週木曜午前中に区役所ロビーで開設 開設日数:60日 延べ相談者数:約210人) ・地域デビュー講座(H22年1/20、2/3、2/17、3/3 連続4回講座 参加者:17人) ・「大人の文化祭」特別講演会(開催日:H22年1/30 講師:山田太一 来場者:約700人)	平成18年度	1,348,000	1,102,914	・相談窓口やシニア世代向け講演会には多くの来場者があり、訪れたシニア世代に対して地域デビューや生きがい作りのひとつのきっかけを提供することができた。 ・地域デビュー講座を通じて地域活動に対する関心を喚起し、実際に地域でボランティア活動を始めた人もおり、シニア世代の能力や活力を地域で活かすきっかけを作ることができた。 ・事業全体を通してシニアアドバイザーの能力や活力を企画・運営に活かすことができた。	見直し・改善の上継続	・シニア世代の自己実現を支援しつつ、地域社会の活性化や地域課題の解決にその能力を活かすという事業目的に照らして、各事業の内容を精査し、シニアアドバイザーとの協働による相乗効果や好循環が生まれる仕組みを検討する必要がある。 ・シニアアドバイザーの任期を考慮しつつ将来的な事業展開の方向性を再検討し、アドバイザーによる組織的・自立的な運営体制の構築と、行政との適切な役割分担を進める。	B	企画課

平成21年度 宮前区協働推進事業評価一覧表

NO	事業名	目的及び内容	開始年度	予算額(円)	決算額(円)	成果	次年度以降の事業計画	具体的な展開方針 (※終了する場合は終了理由)	優先度	担当課
13	子ども情報発信事業	宮前区は地形的に区役所などに情報を得に頻繁に訪れることは、困難であるため、ホームページ等による情報発信の実施が必要であるが、これまでの、こどもに関するホームページは個々の情報を個々に発信するなど、わかりにくく、検索もしづらい状況であった。これらの情報を整理し見やすく、検索しやすくする必要があり、情報の案内役と、情報が不足していた就学以上のこどもの情報の充実のため、宮前区こども子育てホームページを開設する。	平成21年度	629,000	624,750	みやまえ子育てガイド「とことこ」ホームページでは、就学後の手続きや子どもの相談に係る情報の掲載がなかったが、子ども子育てホームページの開設により、就学後の子育ての情報が充実した。 0歳から18歳までの子どもに関する情報を集約することで、情報の検索等が容易になった。	終了する	—	—	こども支援室

4 環境を守り自然と調和したまちづくり

14	東名川崎インターチェンジ周辺整備推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市北部の玄関口としての東名川崎インターチェンジ周辺の景観を整備することにより、川崎のイメージアップを図る。平成19年度、東名川崎インターチェンジ周辺整備推進協議会景観部会が作成した「東名川崎IC周辺景観デザイン提案集」を基に市民・企業・行政が協力しながら、まちなみの整備等に活かしてゆく。東名土橋公園や沿道花壇の維持管理のために地元町内会を中心とした維持管理団体（土橋園芸クラブ）を設立し、地域との協働による緑の育成などの取り組みを推進する。 東名川崎インターチェンジ周辺の環境や景観に関する勉強会やイベントの開催を検討する。 財団法人川崎市公園緑地協会や富士通株式会社川崎工場環境管理部等との連携による、景観まちづくりの推進を図る。 	平成16年度	375,000	358,637	<ul style="list-style-type: none"> 東名土橋公園や沿道花壇の維持管理のために地元町内会を中心とした維持管理団体（土橋園芸クラブ）を設立した結果、その期待に応え、季節ごとに美しい花々が東名川崎インターチェンジ周辺を彩るようになり、川崎の北の玄関口としての景観は著しく向上し、川崎のイメージアップに大きく貢献できた。 市が主催する第5回「わがまち花と緑のコンクール」団体部門で大賞を受賞、まちづくり協議会主催の第4回フォトコンテストに入賞するなど、景観づくりへの取り組みを多くの市民に周知することができ、その結果、区内で花壇や緑を維持管理する活動団体にも大きな刺激を与えている。 第5回「わがまち花と緑のコンクール」団体部門の大賞受賞を記念して9月に開催されたイベント「東名花壇祭り」では、地元町内会を通じて子どもから高齢者まで多くの人が参加し、川崎の北の玄関口の景観に大きな関心を呼び起こした。 	見直し・改善の上継続	川崎の北の玄関口周辺の再構築事業は平成22年度で終了するため、東名川崎インターチェンジ周辺整備事業も大幅に見直す必要がある。平成23年度以降、財団法人川崎市公園緑地協会の地域緑化推進計画と連携し、東名インターチェンジ周辺だけにとどまらず、魅力ある緑豊かな環境を創出するまちづくりを区内に拡大するため、市民活動団体との協働による花壇の維持管理や緑の育成等の取り組みを支援する体制を構築するとともに、緑の保全・創出・育成に向けた市民活動団体のネットワーク化（緑の回廊づくり）を推進する。	A	地域振興課
15	宮前区役所屋上緑化事業	<p>深刻化する地球温暖化現象・ヒートアイランド現象への対策として、区役所庁舎の屋上を緑化する。</p> <p>区民にとって身近な存在である区役所庁舎で屋上緑化を行うことにより、区におけるCO2削減の取組を広く周知し、区民の環境問題に対する意識高揚を図る。また、屋上緑化の身近な施工事例として事業者等の視察を積極的に受け入れ、区内事業所の緑化促進につなげる。</p> <p>施工箇所：区役所南棟3階屋上 施工面積：117.0㎡</p>	平成20年度	2,468,000	2,310,000	<ul style="list-style-type: none"> 薄層コケ緑化製品の保水能力と蒸散効果によって屋上部分の温度を低減するとともに、併せて断熱材を施工したことによって建物の断熱性も向上させることができた。 施工後、市民活動団体や事業者からの問合せや視察の要請があり、環境問題に対する意識の高揚や緑化促進のきっかけを提供することができた。 	見直し・改善の上継続	施工後の経過を観察し、緑化資材の良好な生育状態を確保できた場合は積極的に情報発信を行い、区民や事業者の環境問題に対する意識高揚を促していく。また、効果を検証のうえ、区役所庁舎の他の部分の屋上へ順次緑化面積を拡大していく。	B	企画課
16	ecoゴロブプロジェクト	<p>「カーボンチャレンジ川崎エコ戦略」において、多様な主体の協働によるCO2削減の取り組みが推進されていることから、使用済みてんぷら油からリサイクル石けんを製造する工場を見学するツアーを開催し、リサイクル石けんの普及と利用促進を図り、環境問題について区民の理解を高める。</p> <p>日時：3月23日（火）9:00～16:00、参加者：43人</p>	平成21年度	327,000	167,690	ツアー終了後のアンケートでは、参加者から環境問題への意識が高まった、リサイクル石けんを使ってみたい等の意見があり、CO2削減についての理解と意識を高めることができた。また、募集人数を上回る申し込みがあり、区民の関心が高い分野であることがわかった。	見直し・改善の上継続	区民の関心が高く参加者にも好評であったことから、リサイクル石けん工場にとどまらず、資源循環に関連する施設の見学や環境に関する講座を開催するなど、より充実した内容となるようにする。	B	企画課

5 個性と魅力が輝くまちづくり

17	みやまえロビーコンサート	来庁する区民にうるおいのある時間を過ごしてもらい、親しまれる区役所の実現をめざし毎月1回区役所2階ロビーでコンサートを開催する。来場者数は毎回200人前後、毎回レベルの高い奏者を迎え様々な音楽を提供している。来年の7月には他区に先駆け第200回に到達する。	平成5年度	1,700,000	1,638,000	宮前区は他区と比べて音楽事業が少ないため、定期的に開催する貴重なコンサートとして毎回多くの来場者に良質の音楽を提供することができた。パレエティに富んだ出演者を配しており、毎回コンサートを楽しみに来庁する区民も多数おり、定期開催のコンサートとして定着している。	見直し・改善の上継続	定期開催のコンサートとして定着している。来場者が増えてきているため、安全の確保、会場や開催の形態などを検討、改善していく必要がある。7区の中でいち早くロビーコンサートを開催した区として、22年7月に第200回に到達することを記念したコンサートを市民館大ホールで開催する。	B	地域振興課
18	みやまえ太鼓ミーティング	地域の太鼓団体を中心に、太鼓を通して宮前区に残る文化・伝統を再認識すると共に、演奏者・来場者相互の交流を図ることを目的とする。公募による区民で組織した実行委員会が企画・運営を行っている。出演団体メンバーも実行委員として参加し、その経験やノウハウを取り入れた区民主体の運営を行っている。前回から取り組み始めた出演団体による合同演奏では参加者間の交流が進み、演奏にも上達が見られた。 開催日：8月22日（土） 場所：第1部・宮前市民館大ホール、第2部・市民広場 来場者数：約1,500人	平成11年度	1,677,000	1,589,642	<ul style="list-style-type: none"> 実行委員それぞれが伝統文化の担い手としての自覚をもち、単なる発表会にするのではなく、こどもワークショップや篠笛ワークショップ、合同演奏などを企画し、伝統文化の保存、継承に寄与した。 当事業を通して団体間の新たなネットワークが生まれ、交流も深まった。 実行委員である地元高校生が広報を担当。より斬新な地域性の高いチラシ・ポスターを作成し、実行委員および来場者に好評を博した。 ゲストに世界的に活躍しているヒダノ修一氏、アフリカンバンドのB.B.モフラン&ジャンボ氏を迎え、来場者が伝統文化を知り、学ぶ機会を提供できた。 	見直し・改善の上継続	実行委員会の熱度が高く、自主的な様々な企画・運営を行うことができる環境が年々整ってきている。出演団体同士のネットワークが活性化し区の音楽事業の大きな特徴となっている。今後は、長年練習してきた秩父屋台囃子に「弘前ねぶた」を篠笛の曲目に加え、「弘前ねぶた」を地元の学校や活動団体等と連携して作成する企画を進めるなど、太鼓という文化を介して、団体と地域とのつながりを一層深めることができる方法を検討していく。	B	地域振興課

平成21年度 宮前区協働推進事業評価一覧表

NO	事業名	目的及び内容	開始年度	予算額(円)	決算額(円)	成果	次年度以降の事業計画	具体的な展開方針 (※終了する場合は終了理由)	優先度	担当課
19	みやまえ新春コンサート	公募による区民で組織した実行委員会による運営の下、区内を中心に音楽活動をしている個人や団体の参加により、相互の交流と協力でコンサートを開催し音楽を身近に感じてもらい芸術への意識の向上を図る。クラシックを主体とし、オーケストラと出演者の共演、アンサンブルでの演奏などコラボレーションによる構成を特徴としている。 開催日：平成22年1月17日(日)、場所：宮前市民館大ホール 入場券500円(全850席完売) 入場者数：約800人	平成18年度	810,000	770,710	・実行委員、出演者同士が交流を図りながら、自主的かつ効率的に事業を運営することができた。スタッフ、出演者が協力してコンサートを作り上げ、来場者に対して上質のクラシックコンサートを提供することができた。 ・毎年定員を大幅に超える入場希望があり、抽選で入場者を決定していたが、継続して希望しても当選しないという区民の声に耳を傾け、今回区では初めての有料化(500円)を実施し、公演の10日前に全850席完売するという大成功を収めた。アンケートと結果でも、入場料金について安い・妥当という声が95%以上と有料化に賛同する意見が多数を占め、80%以上がコンサート内容について「とてもよい」と答えるなど、料金・内容ともに高い評価を受けた。	終了を見越して継続する	有料化に賛同する声が多かったため、引き続き有料化を実施する方向で検証する。500円の料金では、完売しても全事業の半分程度しか充当できないので、入場料を引き上げるか、経費を削減して現状料金で対応するか、完全自主運営を視野に入れた方策を今後も検討していく。	B	地域振興課
20	しあわせを呼ぶコンサート	音楽を通じて、障害者と健常者の相互理解と交流を深めながら、障害者の社会参加と自立を促進するため、宮前区内の障害者福祉施設・作業所に通う人々による合唱とゲスト(ソプラノ 中丸三千繪)によるコンサートを、9月4日(金)宮前市民館大ホールにて開催した。 入場者数 約830人。	平成12年度	2,754,000	2,753,800	出演者(障害者)の皆さんは日ごらの活動や練習の成果を発表することで充実感や達成感を得ることができた。また、出演者(障害者)の皆さんの熱演が区民の方々に元気と感動を与え、障害者に対する理解を深めることに繋がった。コンサート(音楽)を通じて障害者と健常者が相互に触れ合う交流の場とすることができた。	見直し・改善の上継続	広く周知されるようになり、来場者数も年々増えている。来年の開催を楽しみにしていると言う声も多数寄せられている。コンサートは障害者が多くの区民と触れ合い、日ごらの活動を発表できる大切な機会であり、障害者の社会参加と自立を実現するためには、障害者福祉施設・作業所等連絡会との連携・協力を進め、相互理解と交流の場としてより発展させる企画を検討する必要がある。	B	地域振興課
21	地域の魅力発信事業	・平成19年度に設立された宮前区観光協会が行う地域情報の収集、整理、加工、発信の基本事業と連携を図りながら、ハード・ソフト両面での事業展開を行う。(サインボード兼チャシパンフレットラックの設置、観光情報記者による情報収集事業、歴史遺産をめぐるイベント費用) ・宮前平駅、鷺沼駅及び向丘出張所に設置している総合案内板の更新、塗装及び清掃等のメンテナンスを区内の施設の新設や名称の変更にあわせて行う。	平成20年度	2,264,000	2,016,475	・宮崎台に設置したサインボード(観光ラック)の需要性が高く、利用する方々のチャシの持ち帰りも多く、一定の成果を上げている。 ・総合案内板については、有馬・野川生涯学習支援施設、土橋小学校など約10箇所の新規施設の表示、道路公園センター等総合案内板について、約20箇所の名称変更した施設を訂正して表示、向丘診療所等の表示を削除し、区内の施設情報を正しく提供できた。	見直し・改善の上継続	・サインボード兼チャシパンフレットラックを鷺沼駅及び宮崎台駅に設置したが、今年度は宮前平駅に設置予定であり、区内3駅への設置が完了する。今後は、配架コンテンツのさらなる充実を図り、観光情報発信基地として有効に活用したい。観光情報記者の活動については、都市型観光の特徴的な取組として注目されることである。 ・総合案内板については、大きな組織変更がある場合等、約3年ごとに掲載情報について確認し措置する必要がある。	B	地域振興課
22	みやまえ映像コンクール支援事業	中学生が中心となって制作した「宮前区」を題材とする映像作品のコンクールを開催し、文化芸術の発表の場を確保するとともに、大人と子どもの端境期に位置する中学生に対し、地域における居場所の提供、地域社会との関わりのきっかけづくりを行う。 ・第3回みやまえ映像コンクール 平成22年2月28日(日) 土橋小学校 参加10作品 来場者150人 ・コンクールに向けた映画づくり講習会(8月～12月)	平成21年度	700,000	700,000	・災害時等の地域の貴重な担い手でありながら、学校・塾・部活動という多忙な日々を過ごし、地域社会と疎遠になりがちであった中学生が、「宮前区のまち」をテーマとした映像作品を制作することにより、宮前区を知り、地域社会に馴染む契機となった。 ・映像作品は区内外の各所で上映されており、区民が地域の魅力を再発見する機会を提供すると同時に、手づくりの宮前区PR映像として機能している。	終了を見越して継続する	・本事業は、事業提案制度から派生した事業であるが、地域や教育現場における評価も向上しており、区民主体で実施する限りにおいては継続すべき事業である。ただし、行政支援は提案制度における継続事業と同じく5年間限定とし、平成25年度で終了する。 ・3度のコンクール開催を経て、映像制作の技術を身に付けたOB、OGがボランティアとして事業を手伝い始めており、職員の技術力に左右されない体制を構築すべく、その育成を継続していく。	B	企画課
23	友好都市交流事業	区政15周年を迎えた平成8年度から「個性豊かな新しい都市生活文化を創造する区」の実現をめざすため、長野県佐久市との交流を開始。物産観光交流：宮前区観光協会へ委託 民間交流事業(子ども自然交流)：平瀬川流域まちづくり協議会へ委託	平成8年度	692,000	552,268	物産観光交流については、観光協会に委託し、佐久市バルーンフェスタの視察や宮前区民祭への佐久市物産展を招致するなど両都市の交流を推進した。また、子ども自然交流事業については、平瀬川流域まちづくり協議会へ委託し、多くの子どもたちが佐久市の自然とふれあうことができた。	現状どおり	各事業を通して、区民が佐久市の文化に触れるきっかけを提供することができ、一定の役割を果たすことができた。 今後も、物産観光交流と子ども自然交流を柱として交流を推進する。	B	企画課
24	NHK公開番組収録実施事業	少子高齢化などを背景として地域での多様な世代のつながりが薄れている中で、区の魅力や各地域の資源、資産について多くの区民が認識し、共有を図るため開催した。 番組名：ふるさと自慢うた自慢(NHKラジオ第1放送) 開催日時：4月17日(金)18:10～20:30 放送日時：5月30日(土)、6月6日(土) 午後9時5分～9時55分 場所：宮前市民館大ホール 出演者：ゲスト 島倉千代子・美川憲一、地元区民6人男女各3人 ふるさと星(区民1人)、ふるさと審査員(区民2人)	平成21年度	111,000	110,294	様々な分野で地域活動をしている区民などが出演したことで、生の声で具体的な区の魅力や地域の資源、資産について、広く発信することができた。 また、応募についても、倍率2.5倍と好評であり、多くの区民の関心を得ることができた。	終了を見越して継続する	宮前区は、子どもが多く、大規模マンションなどの開発によって、子育て世代の転入世帯も増加していることなどから、子育て支援の一環として、22年度に子ども向けのテレビ番組を実施し、一旦事業は終了することとする。	B	企画課

6 参加と協働による市民自治のまちづくり

25	まちづくり推進事業	区民と行政との協働による魅力あるまちづくり推進のため、区民、地域団体、企業の代表、行政を構成員とした、まちづくり協議会を設置し「宮前区区づくりプラン」の推進及び実現を目指す。 平成21年度の理事会開催数は12回で、参加人数は毎回14～5人(定数23人)程度。市民活動への活動支援事業(広報紙運営委員会による「まちづくり広場」(発行部数約7千部)を通じた市民活動の広報、資金支援運営委員会の活動支援金制度による活動支援など)、情報支援部門のネットワーク化委員会・まちづくり学級等による市民団体ネットワーク化の推進等、中間支援機能についての役割を推進している。	平成9年度	4,819,000	4,750,365	・中間支援機能を担うまちづくり協議会では、市民活動団体のネットワーク化が進み、今年度はネットワーク化委員会がこれまでに情報収集した約70団体の活動情報を「宮前ぼーたろう」と相互リンクすることで、「宮前ぼーたろう」を活用した市民活動団体の情報発信が可能になった。 ・活動支援金については区内の14団体に資金支援し、市民活動の活性化に寄与した。 ・広報紙運営委員会の「まちづくり広場」は9月号(171号)よりカラー化し、活動支援金を受けている団体等の活動の情報をより有効に発信することができるようになった。 ・ネットワーク化委員会では、活動団体同士の交流を目的とした市民活動団体向けの特別講座(PRひとつであなただの活動が元気になる!)を12月に開催、12団体が参加した。 ・まちづくり学級は年間16回開催。みやまえふれあいフェスタにおけるスタンプラリーの参加協力、まちづくり活動をテーマに加え、団体応募も始めた第4回フォトコンテスト開催(応募作品数は昨年約2倍、過去最多の156点)、市民活動に役立つ情報をまとめた「宮前区まちづくり・市民活動応援カタログ」の配布、市民活動団体の活動場所の情報をまとめた「宮前区市民活動応援マップ」作成などの成果を上げることができた。	見直し・改善の上継続	区民と行政との協働による魅力あるまちづくりを推進するためには、市民や活動団体を「つなぐ、むすぶ、ひろげる」といった活動が今後も重要であり、課題解決に向けて区民主体の、まちづくり協議会などと協働して、快適で住みやすいまちづくりを目指す。	B	地域振興課
----	-----------	---	-------	-----------	-----------	--	------------	---	---	-------

平成21年度 宮前区協働推進事業評価一覧表

NO	事業名	目的及び内容	開始年度	予算額(円)	決算額(円)	成果	次年度以降の事業計画	具体的な展開方針 (※終了する場合は終了理由)	優先度	担当課
26	まちづくり支援事業	区民と行政との協働による魅力あるまちづくり推進を目的とし、まちづくり協議会だけでなく、広く区民によるまちづくり活動に対してコンサルティング等を行うことにより、区民活動の推進が図られるため、平成20年度より単独事業とした。「まちづくり協議会」や専門性を有するコンサルタントから適切なコンサルティングを受けることにより、区内のまちづくり活動の活性化を目指す。	平成20年度	3,185,000	3,180,450	今年度はデザイン・企画構成力に強いコンサルに代わり、「まちづくり市民活動応援カタログ」を企画作成し、市民活動団体の活動に役立つ情報を提供することができ、まちづくり協議会の活動を区民にわかりやすく周知する手段の一つとなった。市民活動団体向け特別講座(チラシづくり)開催し、12団体24名が受講、アンケート結果や受講者の強い要望により、22年度も引き続き開催することとなった。第4回フォトコンテスト募集チラシ、第2回まちづくり広場ラブリみやまへの案内チラシ作成などにコンサルの貢献が大きい。コンサルティングを委託することにより、まちづくり協議会が中間支援機能を有した組織として、効果的に活動することができた。	見直し・改善の上継続	区民にとって住みやすいまちづくりを行うため、「まちづくり協議会」や区民のまちづくり活動に対して専門性を有するコンサルタントからの適切なコンサルティングは必要である。慣例慣行を改善し、委員による新しい企画を実現する際にコンサルの専門的能力への期待感は大々となっている。コンサルが変更になったことで、特定の委員や事業への偏重を抑止し、新たな企画・創造の契機となった。今後も計画的な企画展開を委員とともに図る必要がある。	B	地域振興課
27	みやまえふれあいフェスタ	「差し出す手・つなぐ幸せ・みやまえく」をテーマとして、さまざまな立場の人がともに笑顔で暮らすことができる地域社会の創出をめざすとともに、区民が主体的に参加することで、区民相互の連帯やコミュニティの活性化を図ることを目的としている。区役所、宮前市民館及び市民広場を会場に、区内の福祉団体や市民活動グループの特性やノウハウを生かした発表・交流を内容とする「ふれあい」を重視した体験型企画や出店を中心としたイベントを開催する。 平成21年5月17日(日)10時～15時 宮前区役所・宮前市民館・市民広場にて 来場者数 12,000人	平成7年度	1,781,000	1,693,413	テーマに即した体験型の催しを数多く展開し、また「迷路の家」などの子ども向け企画を充実させてきたことや、実行委員の主体的な広報活動などにより、年齢層に関係なく、多くの来場者を得ることができた。イベントに参加する市民活動団体と来場する区民等が、体験型企画等を通じて交流することによって区民相互の連帯や地域コミュニティ活性化が促進される。市民活動団体の貴重な情報発信の機会となっている。	見直し・改善の上継続	4月のふる里さくら祭りに続く、宮前区の春のイベントとして、定着している。区民や市民活動団体の貴重な交流の場としても意義のある事業であるため、新しい人材や企画を取り入れながら事業展開する。区内の保育園・幼稚園協力による「笑顔の絵画展」を軸に、子どもから高齢者まで幅広く人気があり、多くの市民団体が積極的に参加しているこのフェスタを支援することは、市民活動を支援する区の方角に合致している。	B	地域振興課
28	みやまえスポーツふえすていばる	従来から宮前区内で行われてきた複数のスポーツ大会を、スポーツ技術の向上、健康増進という共通の事業目的のもと関連した事業としてひとくくりにするとともに、新規の大会についても企画し実施することで、区民に対してスポーツ参加意識の向上を図っている。内容としては女子バレーボール、ソフトボール大会、フットサル大会については、一定のチーム力を持ったグループが争う大会となり、新規参加を促すより、限られた参加チームによる大会内容のレベルアップが目的となっている。歩こう会やディスカバーウォークについては、区民同士のふれあいや、高齢者や若年層の健康増進を図ることが最大の目的であり、広報を通じ、広く参加者を募っている。	平成3年	2,282,000	1,771,283	スポーツ技術の向上を目的とした大会は、継続して参加しているチームが多く、スキルアップし大会内容が年々向上してきている。また広く参加を募る健康増進を目的とした大会は、区民がスポーツを通じてふれあう機会ができ、区民交流を図ることができている。	現状どおり	現在、事業目的は例年どおりほぼ達成されており、今後も幅広い世代・地域の住民に参加してもらうため、市政だより等を活用し広報を行い、区民の健康増進にさらに寄与できるよう事業を継続する。	B	地域振興課
29	宮前歴史ガイド作成事業	・まちの歴史や現在でも区内に豊富に残る歴史的な地域資源を知ること、地域への愛着を深めてもらうことを目的として、「宮前歴史ガイド」(平成12年度作成)が、平成22年度中に在庫切れが生ずる見込みとなったため、情報掲載の更新と新たな情報を追加した改訂版を作成した。 ・宮前区に残る歴史遺産や伝統文化を記録保存し、後世に伝承するために区が設置(平成10年)し、応募した区民で構成された宮前区歴史文化調査委員会と、川崎市協働型事業のルールに基づき協定書を締結、委託して作成印刷した。 菊判、4色+4色 10,000部	平成21年度	1,603,000	1,496,307	・宮前区の歴史的な魅力を深く知ることができるため、子どもから高齢者まで人気がある。子どもは夏休み期間中の課題研究の資料として、高齢者は教養や散策の楽しみとして、転入者は居住する地域への関心から、手に取る区民は多い。このガイドにより、宮前区への関心が高まり、区のイメージアップに大きく貢献した。宿場町ではないものの、大山街道など古の街道が通り、空襲等の戦災を受けなかったため、歴史的資源がまだ数多く区内に残っており、これらの貴重な歴史的遺産や伝統文化を記録し、郷土に関する関心を高め郷土愛を育むことができた。区内の歴史的資源を紹介した冊子が少なく、居住地周辺の地形や歴史を知りたいという区民の要望に応えることが出来た。 ・発行後約10年経過して都市開発が進み地図が現状と異なる部分が多くなったが、新しい都市計画図を使用することにより解消した。	終了する	初版発行から10年を経た改訂であったが、都市開発や人口増加等により住環境の変化が著しいため、改訂までの期間を短くする必要がある。学校の参考教材として活用されれば、毎年大量消費が見込まれるため、増刷するまでの期間が短くなる可能性がある。	—	地域振興課
30	カッパーク鷺沼地域交流・活性化促進事業	平成18年にオープンした「カッパーク鷺沼」を区のシンボルゾーンのひとつに位置付け、カッパーク鷺沼内の5つの施設、保育園や小学校の児童・生徒・PTA、地元町内会等と協働してイベント「カッパーク鷺沼・秋まつり」を開催し、様々な世代や立場の人の交流を通して、区民・企業・行政が一体となったコミュニティの醸成やまちの活性化、地域の振興を図っていく。 開催日：平成21年11月21日(土) 場所：カッパーク鷺沼 来場者数：3,000人超	平成18年度	1,848,000	1,848,000	・イベントを通じて、保育園や小学校の児童・生徒とPTA・町内会・老人クラブ等の大人の間で世代や立場を超えた交流を図ることができ、同時に、カッパーク鷺沼内の施設を超えた地域との交流によるコミュニティの醸成にも寄与することができた。 ・本イベントに触発されてカッパーク鷺沼内の施設で地域交流イベントが立ち上げられ、地域コミュニティの活性化にも寄与することができた。	終了する	本事業により、「カッパーク鷺沼」を区のシンボルゾーンとして定着させ、この場所を中心とした地域で世代や立場を超えた多様な交流を促進させることができた。今後は、カッパーク鷺沼内の施設による自主的な地域交流イベントの開催を後援していく。	—	企画課
31	地域情報発信事業(区民会議課題)	・スポーツ・お祭り・伝統行事といった地域情報を掲載したフリーペーパー「歳時記みやまえ」を発信し、地域活動への参加促進、地域への愛着や関心の向上、地域コミュニティの活性化を図る。 ・広報資料の効果的・効率的な提供と町内会・自治会の負担軽減のため、回覧物の一括配送を行う。 ・歳時記みやまえ 毎月7,000部×12回発行 ・回覧物一括配送 年間98件 月平均8件	平成20年度	2,667,900	1,920,295	・「歳時記みやまえ」については、掲載依頼や問い合わせがあるなど認知度が定着してきているほか、区民会議委員や市民活動団体などから「歳時記を見てイベントに参加してきた人がいる」との意見が寄せられるなど、地域コミュニティの活性化に寄与している。 ・回覧物一括配送により、町内会自治会の負担軽減とともに大幅なコスト削減が達成できた。	見直し・改善の上継続	・「歳時記みやまえ」については、スピーディーな情報提供と情報内容の充実を目的として、これまでの紙ベースでの発行に加え、業務委託による情報収集・取材と地域ポータルサイトでの情報発信を行う。 ・回覧物一括配送については、配送業者を対象に入札を行い、封入・封緘・配送までを含めたトータルの価格競争を行い、さらなるコスト削減を図る。	B	企画課

平成21年度 宮前区協働推進事業評価一覧表

NO	事業名	目的及び内容	開始年度	予算額(円)	決算額(円)	成果	次年度以降の事業計画	具体的な展開方針 (※終了する場合は終了理由)	優先度	担当課
32	地域の課題解決に向けた事業提案制度	「参加と協働によるまちづくり」を実現するため、地域の課題を地域自らが発見し解決していくことを目指し、事業提案を広く募集・選定し、選定された事業を市民活動団体が実施する。 実施事業：落書き消し支援事業	平成18年度	884,000	214,206	21年度は提案された1事業が実施され、地域から高い評価を得ている。地域が主体となって取り組むことで、より地域の実情に沿った魅力あるまちづくりを目指す1つの手法になっており、本制度は非常に有効である。	見直し・改善の上継続	制度のリニューアルの効果や課題を検証しながら事業を継続する。また、事業提案数が減少していることから、地域の実情に沿った提案がしやすいよう、制度の周知を図る。	B	企画課
33	宮前区役所事業概要発行事業	区役所の業務は多岐にわたっており、区民には業務内容や予算などの全体像が分かりにくい。そこで、区の事業や予算をまとめた冊子を作成し、区民に区の施策を分かりやすく体系的に周知する。また、区の情報積極的に発信し共有することで、区民をはじめ様々な人達が協働していく一助とする。 発行：6月、発行部数：8,000部、配布場所：区役所、出張所、連絡所、行政サービスコーナー	平成19年度	577,000	462,000	区民課での転入手続きの際に配布した他、区役所や出張所、連絡所、行政サービスコーナーに置いて希望者に配布したところ、区役所の広範な業務をまとめた冊子として好評だった。また、各種の研修や勉強会等で区の事業を説明する資料としても活用することができた。	見直し・改善の上継続	区役所の全体像を把握できる冊子として有効であることから、最新の情報を提供できるように、毎年内容を更新して発行する。ただし、印刷とレイアウトを併せて委託して編集作業を軽減するほか、発行部数の縮小を検討する。	B	企画課
34	宮前区ガイドマップ作成事業	区役所窓口等で配布するガイドマップの修正及び増刷部数 15,000部 (転入者分 8,000部、地域振興課等窓口設置分 4,000部、イベント等活用分 2,000部、予備分 1,000部) 配布時期 8月 地図情報、施設情報等のデータ修正 情報の更新及び増刷は原則として毎年度行い、5年に1度全面改訂を検討する。	平成21年度	993,000	989,100	転入者への配布以外にも様々な場面で活用されており、区の魅力発信と区民の情報収集手段としてニーズは非常に高く、費用対効果は極めて大きい。宮前区の魅力を紹介するガイド的な要素を多く含み、例年在庫が不足するほどの需要があり、区のイメージアップに大きく貢献している。地理的案内、主要施設、バス路線、避難所一覧や区の情報紹介など、多くの要素を含んでおり、区の貴重な情報発信手段のひとつとなっている。	見直し・改善の上継続	区役所窓口で配布しているガイドマップは区民の貴重な情報源のひとつであり、ニーズが非常に高い。在庫切れを生じさせないよう印刷部数について検討した結果、来年度は宮前区道路公園センターや川崎西部療育センター等の施設名、区民からの要望に基づく信号機設置場所をマップ面に記載し、今年度同様広告掲載収入を見込み、15,000部印刷する予定である。	B	地域振興課
35	宮前区役所BGM配信事業	庁舎内にBGMを流すことにより、単に行政上の申請等を行う場としての区役所にとどまらず、区役所を区民にとって身近で明るく親しみのある場所として提供する。	平成14年度	42,000	42,000	BGMを流すことにより、庁舎内を明るく、かつ身近で親しみやすい空間とすることができた。 またBGMが流れる空間で区民と職員双方に心のゆとりが生まれ、スムーズな対応等窓口サービスの向上にもつながった。	見直し・改善の上継続	配信内容の見直しを図りながら、事業の継続を行う。	B	総務課
36	バリアフリー推進事業	宮前区役所敷地内市民広場南側のスロープ部分(約53㎡)は、降雨時や降雪時大変滑りやすく危険であり、過去にも来庁者が転倒し怪我をしたことがある。 そのため、スロープ部分(約53㎡)のノンスリップタイルへの張替整備を行うことにより、区民が安全に、また安心して利用できる庁舎づくりを行う。	平成15年度	1,900,000	1,855,371	宮前区役所敷地内市民広場南側のスロープ部分のノンスリップタイルへの張替整備(約53㎡)を行ったことで、区役所利用者の安全性が向上した。	見直し・改善の上継続	平成15年度から継続して整備を行っているが、市民広場周辺など改善の必要がある部分はまだ残っている。 今後も庁舎の安全確保のため、バリアフリー化を継続して行っていく。	B	総務課
37	窓口サービス向上事業(待合スペース環境整備)	・小さなお子様連れの区民の方が多いことから、子ども向けの絵本やベンチを備えたキッズコーナーを設置し、待ち時間の快適化を図る。 また、老朽化した記載台のマットや資料コーナーの本棚等のフロアを交換し、待合スペースの環境整備を行うことで、区民サービスの向上を図る。 ・窓口カウンターに座れる人数を増やすため、資料棚を購入しスペースを広げた。 ・子どもに関する情報を子ども支援室前にホワイトボードを使い掲示することで、より身近に必要な情報を提供でき、区民サービス向上を目指す。	平成21年度	433,100	361,434	・キッズコーナーは、小さなお子様連れの区民の方が多く、大変好評でよく利用されている。 また、落書きがひどかった記載台のマットや老朽化していた資料コーナーの本棚を交換したことで、区民の方をお迎えする待合スペースの環境整備を行うことができた。 ・一人分のスペースが確保でき、窓口が込み合う時に座れる区民が増えたので、区民サービスの向上になった。 ・ホワイトボードの掲示はスペースに限りがあるが、来庁者の多くが求める情報の分析を行い、工夫することで、相談しながら、情報も見ると、よりわかりやすい情報提供などの成果がある。	見直し・改善の上継続	区役所来庁者が大変多いフロアの待合スペースの環境整備は必須である。キッズコーナーの絵本は、大変好評で多くの方に利用されているため、傷みが激しい。破損した絵本を陳列することは、見た目が悪く、窓口サービスの低下を招く恐れがあることから、定期的な交換が必要であると思われる。そのため、計画的に継続していきたい。	B	区民課 地域保健福祉課 子ども支援室
7 その他										
38	管理運営経費	協働推進事業における事務経費		2,036,000	1,134,741	適正な維持・管理ができています				
39	緊急対応費			1,461,000	0	当初予算では5,160千円を計上していたが、3,699千円を新規事業や追加事業に充てたため、残額が1,461千円となった。				
合計				55,460,000	48,004,496					

【優先度の考え方】

A	・区民会議からの提案を踏まえた事業で、最初の数年間において重点的に行う必要のあるもの ・総合計画、その他行政計画等に位置付けられた事業で、新規性が高く、重点的に行う必要のあるもの(終了が見込まれるものを除く)
B	・区民会議からの提案を踏まえた事業で、数年たって安定的な運営となり、特段の事情がない限り今後も継続して行っていく必要のあるもの ・これまで継続して行われてきている事業で、地域にとって一定のメリットがあるため、特段の事情がない限り今後も継続して行っていく必要があるもの
C	・A及びBに当てはまらない事業 ・終了が見込まれる事業